

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1176501862		
法人名	メディカルケアサービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム大宮吉野町		
所在地	埼玉県さいたま市北区吉野町2-263-4		
自己評価作成日	令和 3 年 1 月 30 日	評価結果市町村受理日	令和3年5月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88 逸見ビル1階
訪問調査日	令和 3 年 3 月 18日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

認知症の改善には、医学的に日光に浴びることが良いとされているので、当ホームでは、毎日午前中に公園に出て一日のリズムをつけるようにしています。  
また、個々の潜在能力を引き出し、出来る事はやって頂くようにしています。とにかく生き生きとした生活、活力のある生活を営んでいただきます。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

事業所の目の前に大きな公園があり、春のさくら、秋の紅葉など季節を感じることが出来る、素晴らしい環境にある。例年は、公園の見える庭で、納涼祭や、芋煮会などを行って、家族や近所の住民と交流している。日課の散歩では、公園を一周したり、庭にテーブルを出して、お茶会などを楽しんでいる。事業所に入ると、法人の理念やビジョンが掲示されている。事業所の目標のひとつである、「快適で、穏やかな、生活を支援する」ことを、合言葉に、日々の支援に努めている。今年度は、コロナ禍で、外出や面会が中止となっていて、室内で、スタッフと一緒に、たこ焼き、お好み焼きづくりを楽しんでいる。また、理学療法士の指導による、一人ひとりの、機能回復、運動プログラムを作成して、実践している、医療との連携では、提携医が月2回の訪問診察があり、24時間オンコールで、往診もある。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	企業理念及びビジョンは、各ユニットのスタッフルームの見えるところに張り出しており、毎日の朝礼時にて、唱和している	企業理念やビジョンは、掲示している。事業所の具体的な目標については、コロナ禍でもあり、室内で出来る、おやつレクリエーションの充実や個別の体操や運動に力を入れている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	こども避難所110番の家として登録している。コロナ禍において、交流は出来ていないが、電話等にて現状の様子を伝えている	従来は、町内の敬老会や、盆踊りなどに参加したり、事業所主催の、納涼祭や、芋煮会などに、地域の住民も参加して、交流していた。コロナ禍で、電話連絡になっている。ボランティアも、中止となっている。	コロナが落ち着いた時点で、町内の敬老会、盆踊り、地域包括支援センターが行う恵方巻づくり、栗きんとんづくりなどにも参加して、地域との交流を深めて頂きたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍において、運営推進会議の未開催が続いており、コミュニケーションが図れていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議未開催の為、電話や封書等の方法で、少しでもサービス向上に向けて、情報を収集している	2か月に一度開催の運営推進会議は、中止となっている。毎月発行の「吉野町通信」をできるだけ写真を多くして、利用者の様子を伝えている。事業所内で出来る、クリスマスや節分等のイベントを多くして、家族に発信して、理解して頂いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	随時、報告・連絡・相談をして進めている	行政には、従来通り、事故報告などは、おこなっている。コロナ禍で、行政から、手袋、マスク、消毒液などの、無料配布があり、大変助かっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	適時に、身体拘束をしないテキストを配り、注意、喚起をおこなっている	3か月に1度「身体拘束廃止委員会」を開催している。担当スタッフを変えながら、不適切ケアチェックシートを配り記入して、会議で確認し合っている。日々の支援の中で、「危ない」「ちょっと待って」等の、スピーチロックや、命令調になる言葉が出れば、その都度、お互い注意し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	適時に、虐待防止のテキストを配り、注意、喚起をおこなっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を学ぶ機会は少ない為、機会を増やし理解してもらうようにする必要性ある		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前や契約時において、十分な時間を取って説明し納得していただいている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍のため、十分な意見の反映は出来ていない	コロナ禍で、家族参加の、運営推進会議や面会は、中止となっている。リモート対応のできる家族には、リモートで面会頂き意見や要望を聞いている。今年も、本社からの家族アンケートが、実施され、家族の意見をくみ取っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や、個人面談にて、意見、提案を聞いている	コロナ禍で、全体会議は、中止している。ユニット会議の中で、スタッフから、様々意見を聞き取っている。意見の中から、今年は、室内で出来る、お好み焼きやたこ焼き等のおやつレクリエーションや、個人別の機能回復訓練を充実させた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人員不足の解消に向けての方策は取り続けているが、まだ不十分な環境になっている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の案内を随時アナウンスし、スキルアップにつなげている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍のため、出来ていない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まずは、場所に慣れ、人に慣れていただくことから始めて、徐々に関係性を築くようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始前に、ご家族様の要望、懸念、心配事等をヒヤリングし、ケアプランにもそれを明記した上でスタートする		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ヒヤリングを行い、必要とする支援を探り出し、対応するようにしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	第二の我が家として、共同生活の場として認識してもらっている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人・家族・職員一体となって、共通の認識に立って、信頼関係を築くようにしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で、面会は出来ないが、Zoomを使用したり関係性の維持に努めている	コロナ禍で、知人、友人等の面会は、中止している。代わりに、出来る人は、リモートを活用して、遠方の親戚や、知人、友人と交流している。また、知人、友人と電話連絡している人もいる。年賀状は、家族に出していて、サポートしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気が合う、話が合う、相性がいいといった状況を把握し、席を配置することもおこなっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	年賀状や吉野町通信を通して、今までお世話になった感謝の気持ちを継続して伝えている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の好きな事、やりたいことを探り、それに沿った対応をしている	入居前の实地調査で、様々、過去の生活歴、趣味、嗜好等聞き取っている。入居後は、日々の生活の中で、新たな、好きなことが分かってくる。唄が好き、漢字ドリルが好きなど、様々である。困難な場合は、表情などからくみ取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの暮らし方、生活環境は出来る限り、崩さないように配慮している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お一人お一人の今までの暮らしを把握、尊重し、それに沿った対応をしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月一回のユニット会議、また必要に応じた臨時会議にて、ケアの共通認識を持ち、進めている	月1回開催の、ユニット会議の中で、ケアカンファレンスを行っている。ホーム長、ケアマネジャー、ユニットリーダー、居室担当、スタッフなどが、参加している。また、提携医、訪看の看護師、理学療法士等からも、意見を貰い、チームで作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	連絡ノート、申し送り等で、ケアを共有し、必要に応じて改善を図っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	絶対はないので、色々なことを試し、より最適な方法で対応するようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	生き生きとしたメリハリのある生活をしていただくため、潜在能力を引き出すようにしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月二回の訪問診療にて医療体制を確立している	提携医がいて、月2回の訪問診察がある。24時間オンコール体制で、往診もある。訪問看護、訪問歯科も週1回の来訪があり、健康管理に努めている。月1回の理学療法士の来訪もあり、個別の機能回復プログラムも作成している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月四回の訪問看護との連携にて、報告・連絡・相談を密にしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	常に連絡を取り、状態状況を把握し、本人にとって最善の方向を見出している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りケアを学ぶ機会を作り、関わる職員全員が支援出来るようにしている	契約時に、重度化した時の指針があり、事業所で出来ること、出来ないことなど、説明している。重度化してきたら、改めて、主治医、家族、事業所とが、打ち合わせの上、意思確認している。直近でも、5人の看取りの経験がある。また、スタッフの不安を取り除く、研修も実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応のマニュアルがあり、緊急連絡網もあるが、定期的な訓練は出来ていない		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回消防避難訓練を行い、備蓄品の確認、消火器の所在確認をおこなっている	年2回の避難訓練を行っている。今年度は、コロナ禍で、消防署の立ち合いはなく、自主訓練となった。夜間想定の出火訓練では、近所のスタッフ応援体制、消火器、飲料水、レトルト食品等の備蓄状況の確認を行った。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いや声掛けが正しく行われているか、お互い注意し合える環境を作っている	プライバシーの確保では、トイレは、しっかり、閉めることを励行している。扉とカーテンの二重構造となっている。言葉使いなどは、親しき中にも礼儀ありで、その場で、注意し合っている。重要書類は、鍵のかかるロッカーで保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の意思を常に尊重している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人お一人の生活リズムを把握、尊重して対応している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員と一緒に服を選んだり、季節感がわかるように対応している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	きざみ、とろみの対応も行い、そのご利用者様に適した状況を作っている	食事は、厨房で作り、ワゴンで運ばれてくる。献立やカロリーも計算されている。出来る人は、テーブル拭きや、ワゴン運びを手伝っている。正月のおせちや、ひな祭りのちらし寿司も好評である。今年は、おやつレクリエーションにも力を入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を記録し、健康維持に努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きを行い、口腔内清潔保持している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を活用し、リズムを付けて支援している	排泄チェック表を作成して、朝昼晩のトイレに行くタイミングをはかり、トイレ誘導している。夜間帯は、巡視の際に、パッドの交換などを、行っている。退院後の排泄支援は、車椅子使用となっている人も、定期的に、トイレに座る習慣付けを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師の指導の下、取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望、意思を尊重し、対応している	週2回の入浴を基本として、時間帯は、概ね午後2時から4時としている。入浴嫌いな人も、声掛けのタイミングを計りながら、誘導している。入浴剤を使い、温泉気分を出し、スタッフとの会話も弾んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望、意思を尊重し、対応している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋の内容を把握、理解した上で、適切に対応している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人お一人、何が好きで、何をやりたいのかを常に模索して、楽しみを見つけるようにしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍のため、外出は中止している	事業所の脇には、大きな公園があり、散歩には、絶好である。天気の良い日は、毎日公園を周る散歩に出かけている。例年は、車でお花見、いちご狩り、動物園見学など、出かけていた。今年は、室内で、個別運動プログラムを作り、体を動かしたり、おやつレクリエーションにも力を入れた。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要に応じて、支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望、要望に応じて対応している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じる装飾をおこない、心地よい空間を作っている	チェック表を作り、換気、消毒、スタッフのマスク、検温などに努めている。外出自粛なので、スタッフと一緒に、ハロウィン、クリスマス、正月の凧あげ、雛祭りなど、室内の季節を感じる飾りつけに、力を入れている。掃除もスタッフを中心に、テーブル、てすり、椅子など定期的に消毒している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に行動して頂き、居心地の良い環境を提供している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	混乱を防ぐためにも、居室内は、今まで使い慣れたもの、馴染みのもので構成し、今まで生活してきた自分の部屋を再現し、不安を払拭している	自宅の生活を再現して頂くことを、念頭に、自宅で、使い慣れた、椅子、ベッド、テレビ、タンス、家族の写真など、何でも、持ち込んでいる。第二の我が家として、過ごせるよう、工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リビング、トイレ、風呂場、洗濯場、洗面台等、位置を把握して頂き、共同生活に支障のないよう支援している		